

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>◇ICT 活用の定着:クロームブックを自分の学習に役立てる力が全学年で定着している。児童の大半が肯定的に回答しており、授業内でデジタルツールを主体的に活用し、学びを広げる基盤が確実に築かれている。</p> <p>◇対話的な学びの充実:グループ学習で友達の考えを参考にしたり、自分の意見を話したりする協働的な学びが成果を上げている。他者との関わりを通じて考えを深める姿勢が、授業や行事などの多様な場面で育ってきている。</p>
	<p>◇家庭学習習慣の確立:自分で学習する力を高める家庭学習の習慣化が課題である。学校での学びに比べると肯定回答が少なく、特に自分から計画的に机に向かう「自律的な学習能力」をいかに育むかが今年度の重点となる。</p> <p>◇見通しを立てる力の育成:新しい学習に向かう際、自ら見通しを持ったり予想を立てたりする力の育成が課題である。課題解決のプロセスを予測するスキルの回答が他項目より低く、思考を導く具体的な支援を講じていく必要がある。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
	<p>◇異学年交流や行事での協力活動を通じて他者を尊重し共に楽しむ姿勢が定着し、グループ学習でも友達の考えを参考にしつつ、自分の意見を伝える対話的な学びが浸透してきた。いじめを許さないという規範意識も高く、互いの存在を認め合う温かい人間関係が学校生活の安心感を支える基盤として築かれている。</p> <p>◇相談のしにくさを感じたり個別の悩みを抱えたりする児童が全学年で一定数存在することが課題。表面的な協力を留まらず、周囲に弱さを開示でき、それを受け入れ合える質の高い心理的安全性の醸成が求められ、個の内面的な変化に気づき、多様な個性を尊重し支え合える感性を磨く働きかけが大切である。</p>
「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力	
問いを持続させ、自己調整しながら主体的に学びに向かうこと	
取組	課題探究的な学習の推進 に向けて
	<p>◇研究部が主体となって進める単元構成に重点を置いた授業づくりに全学級が取り組む。単元の初めにどのように子どもたちと教材・事象とを出会わせるか、がその後の個人・グループによる自由進度学習などの学習の個性化・個別最適化に大きく関与して行く。子どもの学習自体を AAR サイクルで進めるのと同じく、教師の研究・授業づくりも AAR サイクルでスピード感をもって柔軟に変更を加えながら児童・学級の実態に最適化を図りながら進めていく。</p>
取組	自治的な活動の充実 に向けて
	<p>◇学級の月目標を毎月設定する。目標の設定の際には学級会を開き、学級・個人で1か月を振り返る。設定した目標の期間内での自分たちの問題点を洗い出し、責任を伴った行動ができるための手立てを話し合う。次の目標の設定は、できなかったことだけでなく、自分や学級がどうありたいかということを基本として子どもたちの意思を尊重する。</p>
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について	
	<p>◇課題探究的な学習のために、AAR サイクルの導入部分において、ICT の活用を図る。視聴覚資料の提示だけではなく、児童の意識や考え方などを集約し、それを一覧にしたり、グラフしたりするなど、視覚的に捉え、学びの動機付けになるように工夫する。</p> <p>◇学習の個別最適化の中では家庭学習との連携を図り、教室では体験できないことを家庭の協力を仰ぎながら実施し、ICT を活用し共有を図るなど工夫していく。それを次の探求の見通しにつなげるために振り返りを位置づける。</p>

<本プログラムの実行に向けて>

